

諸民族に対する好悪の態度の研究*

熊本大学助教授

葛 谷 隆 正**

民族に対する好悪の態度

第二次世界大戦以後国内や国際間の緊張を緩和し解消して国内社会や国際社会の平和の確立に寄与しようとする諸種の社会的、心理学的研究が企図され又実施されつつある。ユネスコの重要な研究課題の一つにも「一国民が己れ自身および他の諸国民について抱いているところの固定観念」に関する問題が取り上げられている。今日果してわが国民はこの問題に対していかような実態を示すであろうか。特に戦前と戦後に於て未曾有の歴史的断層を経験したわが国民、大戦後の大きな世界勢力の変

動、国際情勢の著るしい変化のさ中に漸く独立国として立ち上ろうとしているわが国民はいかような国民的民族的好悪感をもっているだろうか。特に明治大正時代に基礎教育を受けた成人層と、戦時中から戦後にかけて基礎教育を受けた若い学生層とに於ていかような変化が見られるであろうか。本篇はこの問題を探るための一つの些やかな試みである。

(A) 予備テスト

1 研究方法

本研究では各民族についての固定観念を各民族に対する好意度、好悪の理由、各民族との接触法その度合いなどにより調査検討して、本テストの調査方法や調査内容を確定するために別表(1)の如き質問紙を作製して之を熊本教育学部2年次生男子169名、女子41名計210名

* An Inquiry into the Attitudes of Like or Dislike for The Various Kinds of Races.

** By Kuzutan, Takamasa (Kumamoto University)

別 表 (1)

民族名	質問項目	好悪の理由(該当欄に○印)						左記民族との接触の仕方(該当欄に○印)														
		好意順に5番まで番号をつける(1・2・3・4・5)	非好意順に5番まで番号をつける(1'・2'・3'・4'・5')	好悪何れとも言えぬ(○印)	好悪全然不明のもの(x印)	度、性質の上から民族の容貌、態	政治的立場から	文化的立場から	経済的立場から	学問的立場から	何となく	日常の交際	日常の観察	雑誌を通して	新聞を通して	書物を通して	ラジオを通して	映画を通して	学校での講義研究	全然見たことなし	全然知らない	
アイヌ人	アイヌ人																					
朝鮮人	朝鮮人																					
支那人	支那人																					
安南人	安南人																					
...	...																					
日本人	日本人																					

好悪の理由の具体的説明を下記する

民族の好悪順位	好意					非好意				
好悪理由条項	1	2	3	4	5	1'	2'	3'	4'	5'
(1)										
(2)										
(3)										

について実施した。期日は昭和29年9月16日である。

これに取り上げた民族はアジア諸民族を中心として世界における主要民族と考えられる民族で、質問紙に記載した順序は次の通りである。アイヌ人。朝鮮人。支那人。安南人。フィリピン人。タイ人。ビルマ人。インドネシア人。インド人。エジプト人。トルコ人。イタリ人。フランス人。ドイツ人。オランダ人。スイス人。イギリス人。ソ連人。アメリカ人。カナダ人。メキシコ人。ブラジル人。ユダヤ人。黒人。濠洲人。日本人。

2 調査結果

(1) 各民族に対する好意度。男女を一緒にして好意度を相対的得点 $(\frac{5f_1+4f_2+3f_3+2f_4+f_5}{5N} \times 100)$ に換算して示すと Table 1 となり、好意それぞれ第9位以下は得点が激減している。そこで一応好意各々第10位迄の民族を本テストで採用することとすると 17 民族が得られる。

(2) 好意不確定の民族。「好意何れとも言えぬ」、「好意全然不明」の民族に関する調査結果は Table 2 の通りである(この%は $\frac{\sum f}{N} \times 100$)。第 10 位迄%の高いものをとるとブラジル人はこれに入らないので本テストには之も加えて民族とした。

(3) 各民族に対する好意の理由、好意点の高い順に 10 民族、非好意点の高い順に 8 民族をとつて結果を整理すると第3表の如くなる。更に好意の理由の具体的内容を分析検討すると民族上の理由は外見上の特質と内面的な特質に大別されるので本テストでは2項目に分けた。又経済上の理由は比較的得点も低く且つ具体的内容は概ね政治的意味が濃厚なので本テストでは政治的理由に包括させた。「何となく好き、嫌い」はある程度その民族に対する固定的

Table 1 男女計 (210名)

民族	得点	好意			非好意		
		総数	相対的得点	順位	総数	相対的得点	順位
アイヌ人	22	4.5		9	3.8		
朝鮮人	10	2.0		179	57.8	1	
支那人	41	8.7	9	82	23.5	4	
安南人	2	0.4		11	1.8		
フィリピン人	7	0.7		85	19.6	5	
タイ人	7	1.3		6	1.6		
ビルマ人	13	2.0		18	4.9	10	
インドネシア人	2	0.4		26	6.1	9	
インド人	75	16.2	8	13	2.5		
エジプト人	5	0.9		9	2.6		
トルコ人	2	0.2		14	3.1		
イタリ人	59	21.2	6	4	0.5		
フランス人	110	29.8	4	6	0.9		
ドイツ人	148	49.1	2	4	0.7		
オランダ人	8	0.7		8	1.3		
スイス人	94	26.9	5	0	0.0		
イギリス人	135	41.9	3	16	4.0		
ソ連人	26	5.1	10	97	31.1	3	
アメリカ人	86	19.3	7	51	17.7	7	
カナダ人	5	1.4		7	1.6		
メキシコ人	1	0.1		12	3.2		
ブラジル人	18	3.1		3	1.7		
ユダヤ人	5	0.9		55	19.0	6	
黒人	4	0.5		98	33.9	2	
濠洲人	2	0.1		59	14.6	8	
日本人	163	67.9	1	5	1.0		

Table 2

総数 (Σf)	%	順位
127	60.5	8
13	6.3	
28	13.3	
166	79.0	1
51	24.3	
134	63.8	6
118	56.2	9.5
118	56.2	9.5
37	17.6	
142	67.6	3
140	66.7	4.5
44	21.0	
20	9.5	
5	2.4	
129	61.5	7
43	20.0	
5	2.4	
25	11.9	
13	6.2	
140	66.7	4.5
154	73.3	2
109	51.9	
93	44.3	
63	30.0	
110	52.4	
13	6.2	

Table 3 (1) 好意 f...実数 R.S...相対的得点

民族		民族上		政治上		文化上		経済上		学問上		何となく	
		f	R.S	f	R.S	f	R.S	f	R.S	f	R.S	f	R.S
日本人	男女計	87	52	17	10	37	22	15	9	36	21	35	21
	男女計	22	53	2	5	9	22	2	5	7	17	9	22
	男女計	109	53	19	8	46	22	17	7	43	19	44	21
ドイツ人	男女計	60	36	22	13	41	24	11	7	75	44	1	1
	男女計	17	42	1	2	9	22	2	5	20	49	1	2
	男女計	77	39	23	8	50	23	13	6	95	47	2	2
イギリス人	男女計	41	24	58	34	43	25	20	12	20	12	5	3
	男女計	20	49	15	37	13	32	2	5	5	12	1	2
	男女計	61	37	73	36	56	29	22	8	25	12	6	3
フランス人	男女計	35	21	10	6	65	39	1	1	19	11	1	1
	男女計	16	39	2	5	23	56	0	0	0	0	0	0
	男女計	51	30	12	5	88	47	1	0.3	19	6	1	0.3
スイス人	男女計	23	14	45	27	24	14	12	7	6	4	8	5
	男女計	5	12	12	29	6	15	2	5	2	5	1	2
	男女計	28	13	57	28	30	14	14	6	8	4	9	4
イタリ人	男女計	13	8	6	4	28	17	0	0	4	2	1	1
	男女計	7	17	2	5	9	22	0	0	2	5	1	2
	男女計	20	12	8	4	37	19	0	0	6	4	2	2
アメリカ人	男女計	22	13	24	14	36	21	40	24	20	12	0	0
	男女計	7	17	1	2	5	12	3	7	2	5	0	0
	男女計	29	15	25	8	41	17	43	16	22	8	0	0
インド人	男女計	24	14	43	25	13	8	3	2	4	2	4	2
	男女計	5	12	6	15	1	2	0	0	1	2	0	0
	男女計	29	13	49	20	14	5	3	1	5	2	4	1
支那人	男女計	23	14	13	8	15	9	10	6	5	3	3	2
	男女計	1	2	0	0	2	5	0	0	0	0	0	0
	男女計	24	8	13	4	17	7	10	3	5	2	3	1
ソ連人	男女計	7	4	13	8	8	5	6	4	5	3	1	1
	男女計	3	7	1	2	0	0	1	2	1	2	0	0
	男女計	10	6	14	5	8	2	7	3	6	3	1	0.3

態度を示すものとして残すこととした。

(4) 各民族との接触の仕方。この結果は Table 4 の如くであるが、前述の好悪不確定の%の高い民族は本表でも「全然見たことがない」「全然知らない」という項目の得点が著るしく高く、且つ又接触法の何れを見ても得点が極めて低い。之等は好悪の理由の得点も頗る低いものばかりである。従つてかかる諸民族は凡て本テストでは削除することにした。但しビルマ人、インドネシア人、ブラジル人、ユダヤ人、濠洲人などもかなり前二項の得点が高く、接触度も低い方であるが、今後の日本との交渉や従来との関係を考える時、彼等に対する態度について知つておくことは有意義であると考え本テストの研究対象とした。

Table 3 (2) 非好意 f...実数 R.S...相対的得点

民 族		民族上		政治上		文化上		経済上		学問上		何となく	
		f	R.S	f	R.S	f	R.S	f	R.S	f	R.S	f	R.S
朝 鮮 人	男女計	86	51	75	44	18	11	14	8	11	7	6	4
	男	14	34	9	22	3	7	0	0	1	2	1	2
	女	100	43	84	33	21	9	14	5	12	5	7	3
黒 人	男女計	44	26	2	1	9	5	0	0	3	2	11	7
	男	20	49	2	5	1	2	0	0	2	5	6	15
	女	64	37	4	3	10	4	0	0	5	3	17	10
ソ 連 人	男女計	20	12	56	33	7	4	5	3	6	4	3	2
	男	2	5	12	29	0	0	1	2	0	0	0	0
	女	22	8	68	31	7	2	6	3	6	2	3	1
支 那 人	男女計	36	21	31	18	7	4	1	1	3	2	0	0
	男	12	29	4	10	3	7	0	0	0	0	1	2
	女	48	25	35	14	10	6	1	0.3	3	1	1	1
ユダヤ人	男女計	19	11	6	4	1	1	5	3	0	0	9	5
	男	6	15	2	5	0	0	2	5	0	0	4	10
	女	25	13	8	4	1	0.3	7	4	0	0	13	8
フィリピン人	男女計	10	6	55	33	2	1	16	10	3	2	4	2
	男	2	5	8	20	0	0	3	7	0	0	0	0
	女	12	5	63	26	2	1	19	8	3	1	4	1
アメリカ人	男女計	13	8	32	19	10	6	14	8	4	2	1	1
	男	2	5	7	17	2	5	1	2	0	0	0	0
	女	15	6	39	18	12	5	15	5	4	1	1	0.3
濠 洲 人	男女計	15	9	28	17	6	4	9	5	1	1	6	4
	男	2	5	3	7	0	0	0	0	2	5	1	2
	女	17	7	31	12	6	2	9	3	3	3	7	3

Table 4 男女合計の結果の相対的得点表

接触法 民 族	日常の 交 際	日常の 観 察	雑誌を 通して	新聞を 通して	書物を 通して	ラジオを 通して	映画を 通して	学校での 講義研究	全然見た ことなし	全然知 らない	好悪不確定 の著るしい ものの順位
アイヌ人		1	4	1	6	3	3	2	18	6	
朝鮮人	9	33	22	43	17	31	14	3	0	0	
支那人	6	4	22	31	18	19	9	5	1	0.5	
安南人			2	1	1				32	20	1
フィリピン人			9	22	5	14	4	1	8	2	
タイ人			1	2	0.3	0.3			22	11	6
ビルマ人			2	13	2	6			17	7	9.5
インドネシア人			2	5	1	4	1		16	8	9.5
インド人		2	14	22	13	13	6	3	4	1	
エジプト人			1	1	2	1	1	0.3	20	9	3
トルコ人			1	3	2	2	0.3		23	12	4.5
イタリヤ人			9	8	13	7	20	4	5	3	
フランス人	1		31	27	26	16	44	6	4	1	
ドイツ人	1	6	37	32	50	23	29	10	4	0	
オランダ人			1	2	2	1		0.3	15	4	7
スイス人			20	17	25	8	8	5	10	2	
イギリス人	1	10	36	53	40	37	43	8	1	0	
ソ連人	1	3	21	35	25	22	21	11	4	0	
アメリカ人	6	31	33	41	31	36	38	14	0	0	
カナダ人			2	2	1	2	2		18	8	4.5
メキシコ人			1	1	1		3		19	11	2
ブラジル人			3	3	8	2	6	2	13	5	
ユダヤ人		0.3	7	2	13	1	2	4	16	5	
黒人		35	15	11	8	4	12	0.3	0	2	
濠洲人	0.3	2	5	14	3	8	1	2	12	8	
日本人		64	47	31	30	30	30	20	0	0	

別表 (2)

調査月日 月 日; 職業 満年齢 性 男女

記入上の注意 誰にも相談なさらず、あなたのありのままの御考えを率直にお答え下さい。

第一項は、各民族に対する好悪感を、好きなものから嫌いなものへ 1, 2, 3, ……18 と全部に番号をいれて下さい。順番がつけにくい時は同番号にして下さい。

第二項は、下に表示してある各項目の中から、あなたがこれと思う項目を選んで、その番号を御記入下さい。いくつ選ばれても結構です。〔何となく〕には○印を記入して下さい。

第三項は、あなたがこれとお考えになるものに○印を記入して下さい。これもいくつ答えられても結構です。

A 容 姿	(1)立派 (2)みにくい (3)上品 (4)下品 (5)清潔 (6)不潔
B 民 族 性	(1)明朗快活 (2)いんげん (3)誠実 (4)ずるい (5)寛大 (6)狭量 (7)親切 (8)残忍 (9)勤勉努力 (10)怠惰 (11)思索的 (12)感情的 (13)忍耐強い (14)飽き 易い (15)傲慢 (16)温厚 (17)利己的 (18)協力的 (19)民族意識が強い (20)民族意識 が弱い (21)紳士的 (22)野蛮的 (23)民族的近親感がある (24)民族的嫌悪感がある
C 政 治 面	(1)中立的 (2)親日的 (3)友好的 (4)排日的 (5)抗日的 (6)侮日的 (7)平和的 (8)謀略的 (9)独裁的 (10)民主的
D 思想・文化面	(1)優れている (2)劣っている (3)自分に合う (4)自分に合わぬ
E 芸術・学問面	(1)進んでいる (2)おくられている

好悪その理由各民族との接触の仕方 民族名	第一項 好きになれる順に番号	第二項 好き、嫌いの理由						第三項 左記民族との接触の仕方								
		A 容 姿	B 民 族 性	C 政治的立場	D 思想、文化の面	E 芸術、学問の面	F 何となく	日常の交際	日常の観察	雑誌を通して	新聞を通して	書物を通して	ラヂオを通して	映画、演劇を通して	人の話、講演をき	
日 本 人																
朝 鮮 人																
支 那 人																
フィリッピン人																
ビルマ人																
インドネシア人																
濠 洲 人																
イタリ ー 人																
フ ラ ン ス 人																
ス イ ス 人																
ド イ ツ 人																
イ ギ リ ス 人																
ソ 連 人																
ア メ リ カ 人																
黒 人																
ブ ラ ジ ル 人																
イ ン ド 人																
ユ ダ ヤ 人																

◎学生に対しては第三項の最後に「学校での講義研究によつて」を加える。

尙成人層に対しては「学校での講義研究」を除いた。又大戦後の邦人の相繼ぐ引揚や邦人、外人の内外の訪問往来が頻繁となつて来たことに關連して講演とか人の話を聴く機会が非常に多くなつていたので、この項目を本テストでは新たに設けることとした。

(B) 本 テ ス ト

(1) 研究目的

今日のわが国民の自己及び他民族に対する好悪の態度はいかようなものであるか。特に戦後に於ける国内外の著しい変動のあつた、又変動しつつある今日、わが国の青年層と成人層との間にこの民族的態度にいかような相違が見られるであろうか。

(2) 研究方法

予備調査によつて検討した結果別表(2)の如き質問紙を作り、熊大学生及び熊本女子大学生(男子166名、女子98名)併せて264名、又熊本市内の2中学校3年の両親(男子112名、女子118名)併せて230名に対し、昭和29年10月~11月に亘つて調査した。

本テストでは特に好意度を測定するために、18民族に対し好意の高いものから順次1, 2, 3,18と各民族に対し番号を附してもらうこととした。番号を同順位にした場合も5民族以上に亘るものは除外することとする。

(3) 本テストの結果と考察

(1) 被調査者について。 調査項目の各項について誤

つた記載をしたもの、一見して出鱈目と分るようなもの、或は無記入のものなどは除外して整理したので、実際に取扱つた数は下記の通りとなつた。

	学生男子	同女子	成人男子	同女子
第1項 (好悪順位)	155	91	86	82
第2項 (好悪の理由)	153	90	84	79
第3項 (接触法)	151	90	80	75

これで見ると学生において約1割、成人において約3~4割の数に上る不正確応答があつたこととなり、かかる調査で質問紙法を用いることの困難さ——質問事項作成法の困難さを物語つている。この点からはもつと直接的な面接法によることが有利であると反省された。

次に無記入を除いて年齢を検べてみると、男学生では19~23才が圧倒的に多く平均21.3才、女学生では19~21才が全部で平均19.9才、成人男子では40~54才が多く平均46.6才、成人女子では35~49才が多く平均40.5才である(上表第1項の人数による)。

尙成人の職業別人数は下記の通りである。

	無記入	無職	商業	工業	農業	銀行・会社員	公務員	サービス	その他
男子	9	5	15	6	2	19	26	2	2
女子	21	47	4	0	0	3	6	0	1

(2) 第1項(好意度)の結果について。 各民族毎に

Table 5

	学 生				成 人				男 女 計				全 体	順 位	A-B
	男子 (a)	順 位	女子 (b)	順 位	男子 (c)	順 位	女子 (d)	順 位	学生 (A)	順 位	成人 (B)	順 位			
日 本 人	1.90	1	2.20	1	1.05	1	1.24	1	2.01	1	1.14	1	1.65	1	0.87
朝 鮮 人	14.88	18	14.92	18	15.38	18	15.06	18	14.89	18	15.22	18	15.03	18	0.33
支 那 人	9.43	9	11.87	10	9.91	11	11.59	13	10.33	9	10.73	11	10.49	10	0.40
フィリッピン人	12.97	14	12.25	13	12.85	13	11.09	11	12.70	14	12.00	13	12.41	13	0.70
ビ ル マ 人	10.31	10	12.09	12	9.55	10	10.45	10	10.97	11	9.98	10	10.57	11	0.99
インドネシア人	12.31	13	12.98	14	11.31	12	11.28	12	12.56	13	11.30	12	12.04	12	1.26
イ ン ド 人	7.45	7	7.82	7	8.39	8	9.13	8	7.59	7	8.75	8	8.06	8	1.16
濠 洲 人	13.65	15	13.16	16	13.32	14	14.49	17	13.47	15	13.89	15	13.64	15	0.42
イ タ リ ー 人	7.30	6	6.96	6	7.85	7	7.42	7	7.17	6	7.64	7	7.36	7	0.47
フ ラ ン ス 人	5.36	3	3.92	2	6.03	5	5.71	4	4.83	3	5.88	4	5.26	3	1.05
ス イ ス 人	6.01	5	5.69	5	7.15	6	6.30	6	5.96	5	6.76	6	6.28	5	0.80
ド イ ツ 人	4.80	2	4.14	3	4.45	2	4.64	2	4.56	2	4.54	2	4.55	2	0.02
イ ギ リ ス 人	5.93	4	4.29	4	5.79	4	6.04	5	5.33	4	5.94	5	5.58	4	0.61
ソ 連 人	11.15	12	11.99	11	14.10	16	14.37	16	11.46	12	14.24	16	12.59	14	2.78
ア メ リ カ 人	8.53	8	8.07	8	5.13	3	5.35	3	8.36	8	5.24	3	7.09	6	3.12
黒 人	13.85	16	13.52	17	13.70	15	13.93	14	13.77	16	13.81	14	13.79	16	0.04
ブ ラ ジ ル 人	10.39	11	11.53	9	9.29	9	9.45	9	10.81	10	9.37	9	10.23	9	1.44
ユ ダ ヤ 人	14.24	17	13.13	15	15.13	17	14.28	15	13.83	17	14.71	17	14.19	17	0.88

a・bの列位相関 $\rho=0.980$

a・cの列位相関 $\rho=0.938$

A・Bの列位相関 $\rho=0.941$

c・dの $\rho=0.976$

b・dの $\rho=0.907$

Fig 1

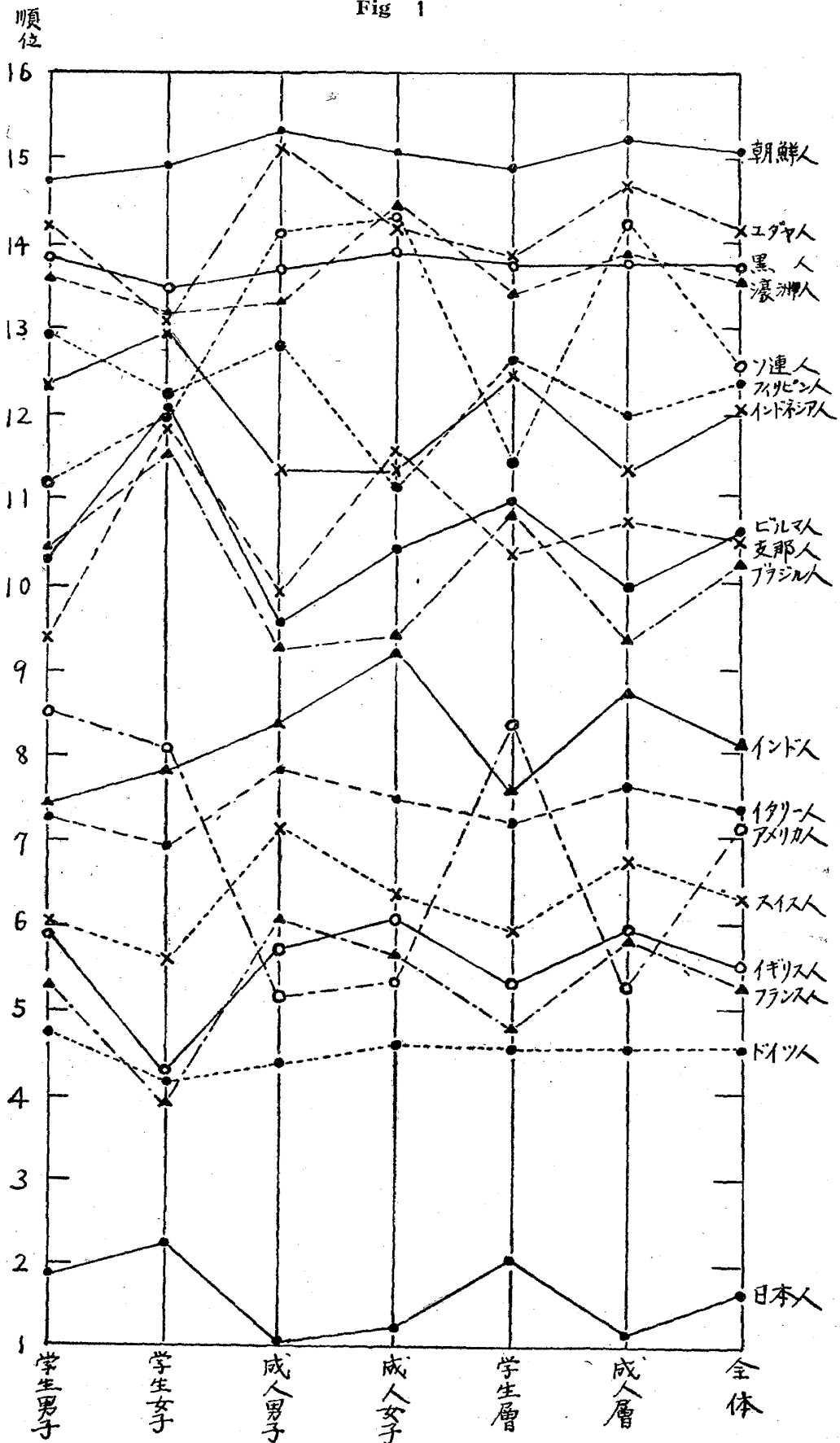
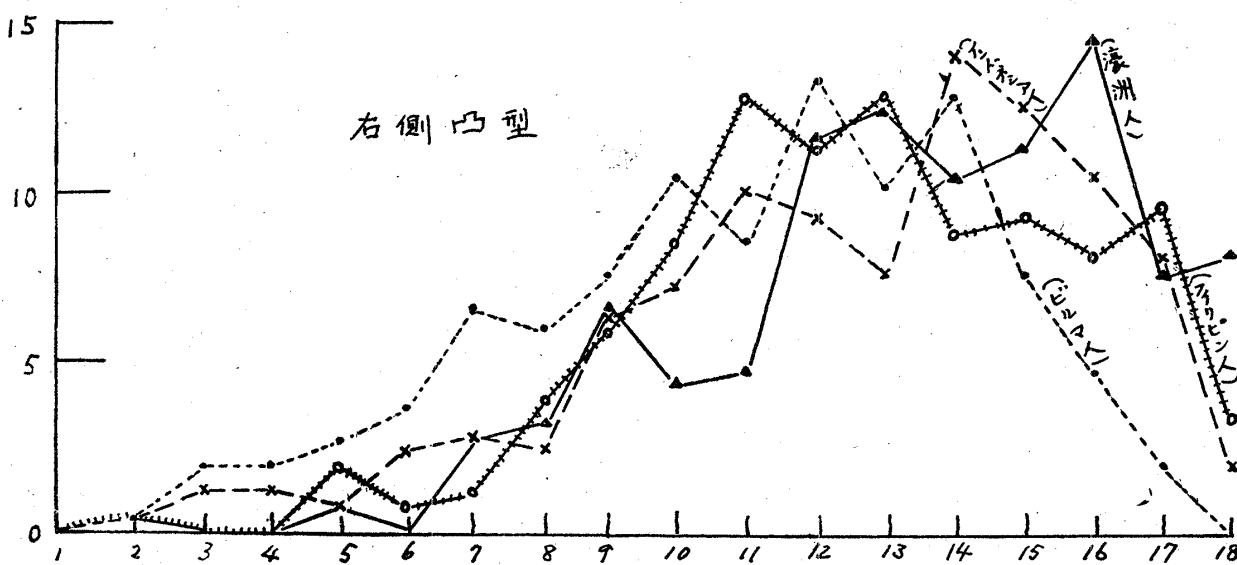
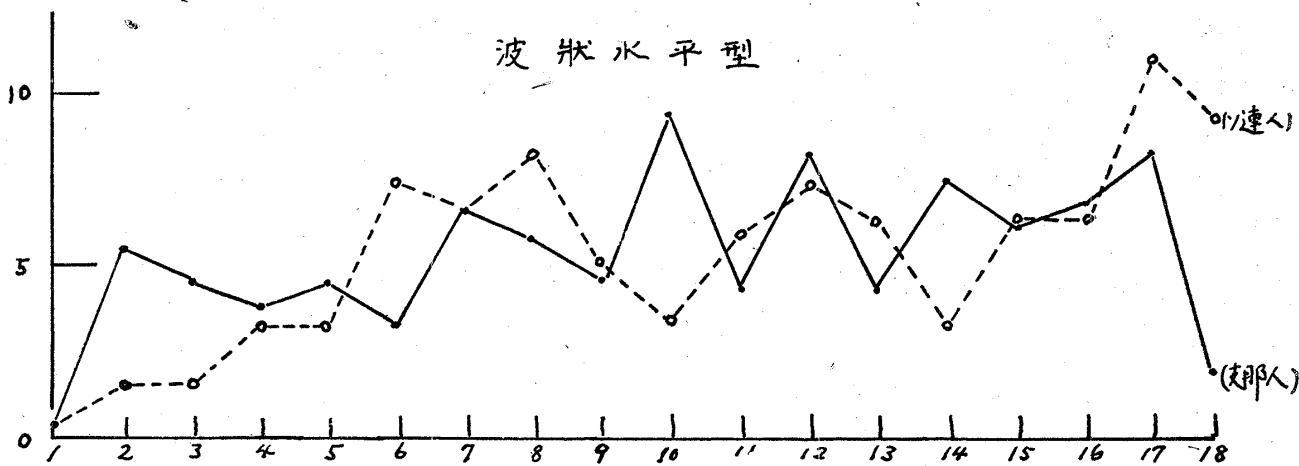
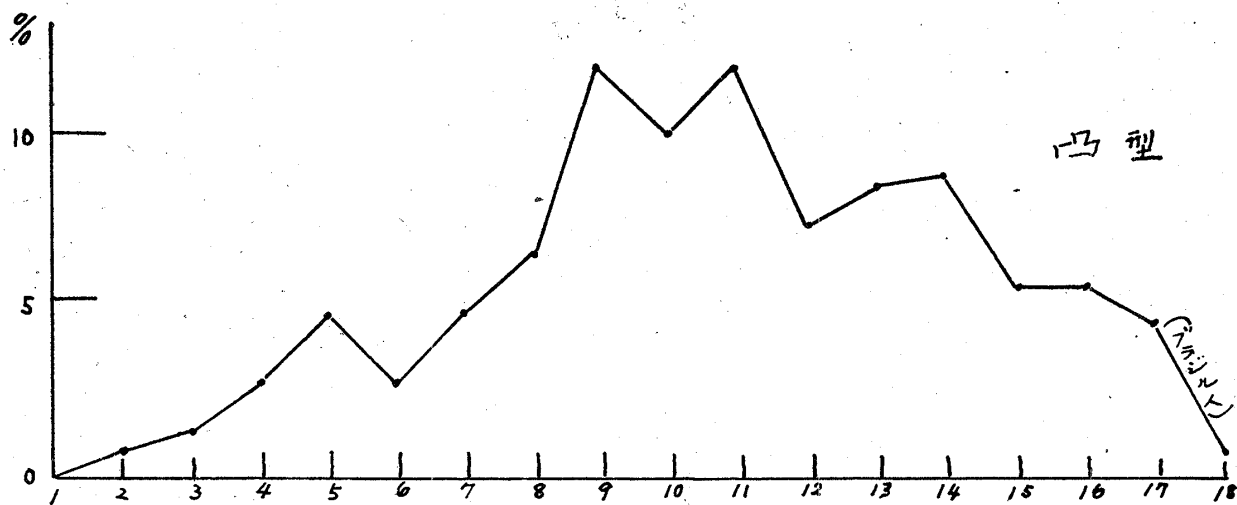


Fig. 2. 学生層



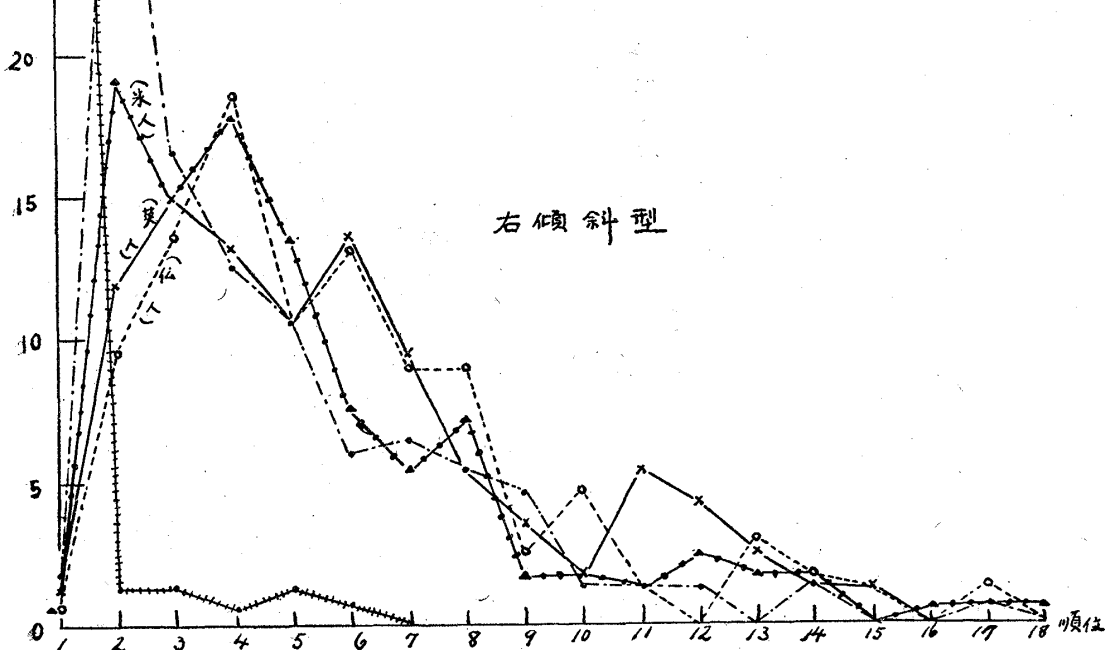
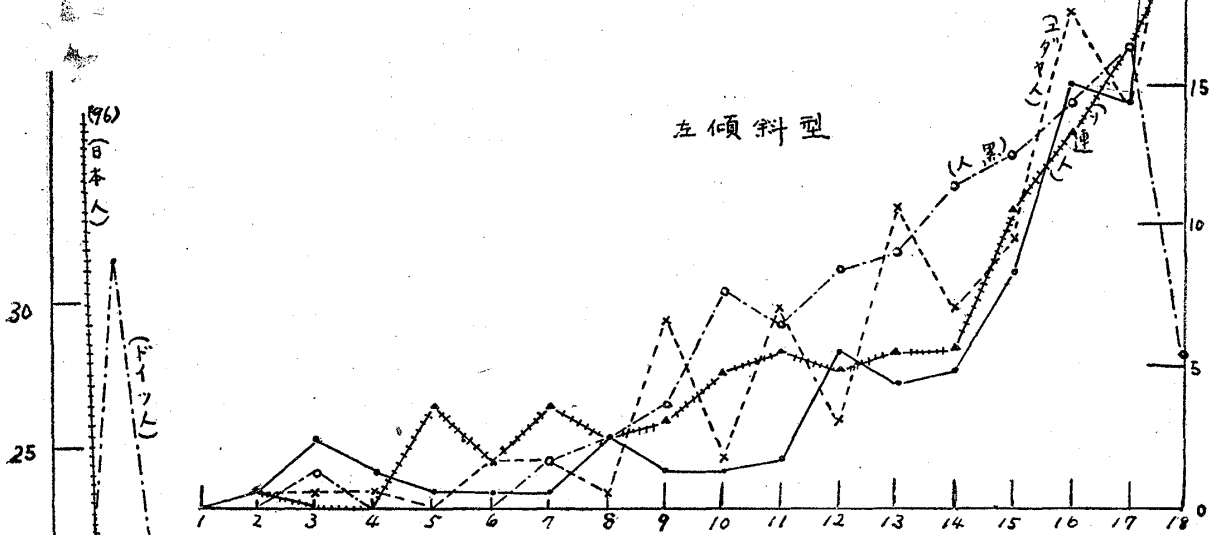
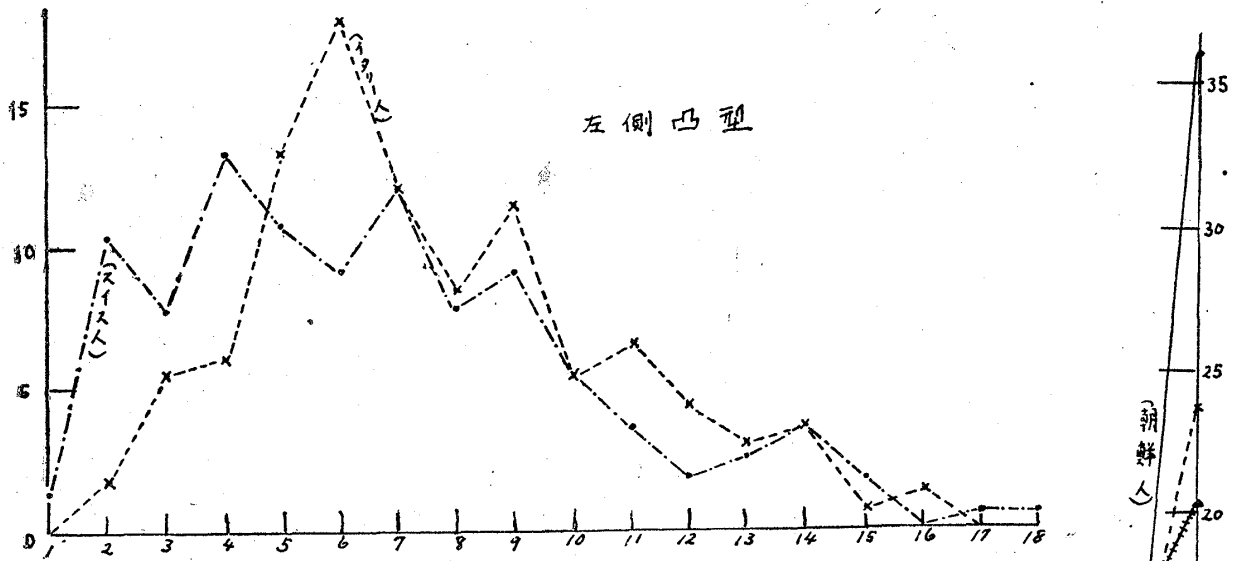
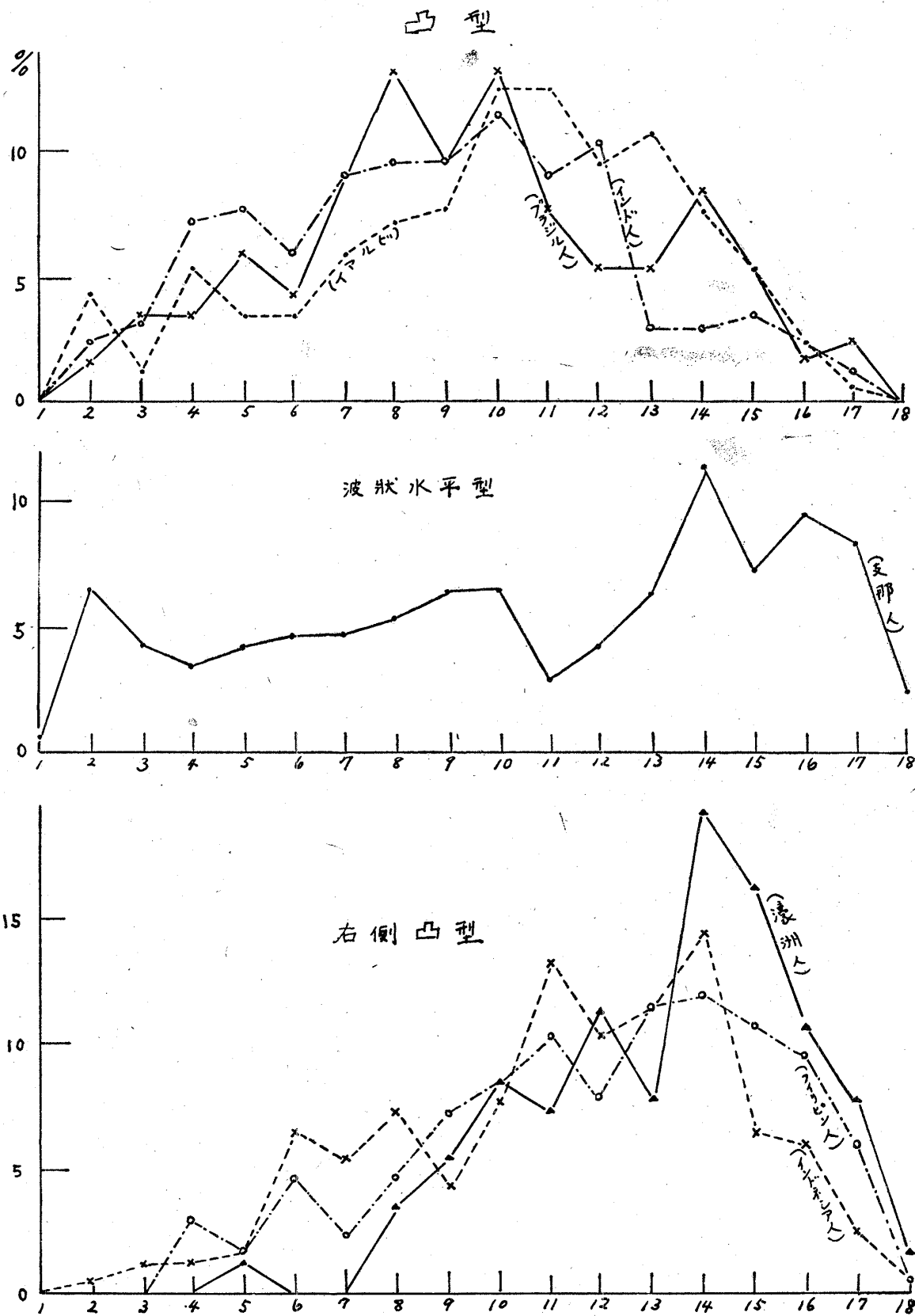
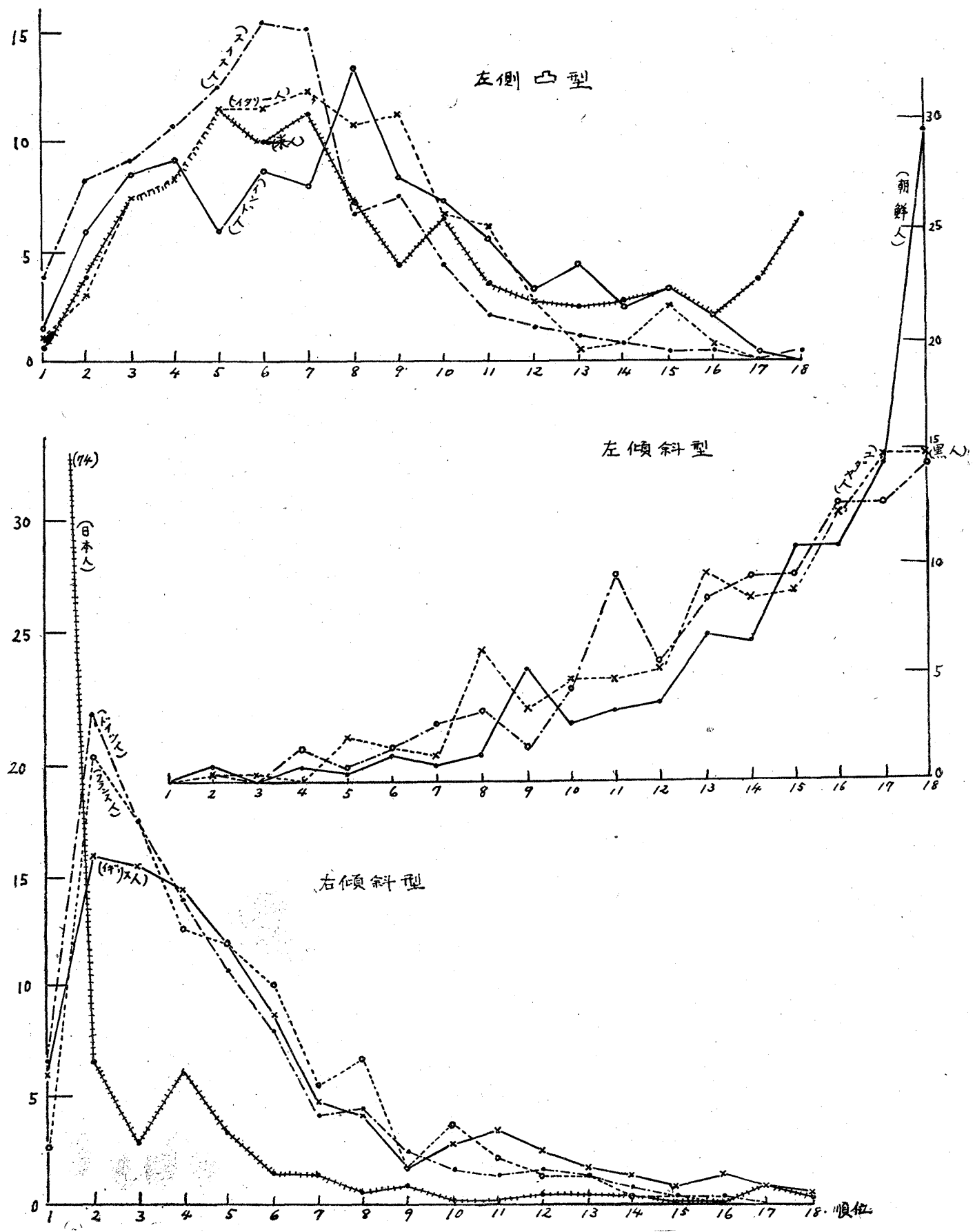


Fig. 3. 成人層





平均順位 $(\frac{f_1+2f_2+3f_3+\dots+18f_{18}}{N(=\sum f)})$ を算出して表にすると Table 5 となる。図示すれば Fig 1 となる。これによつて分ることは、

(i) 列位相関をとつてみると各グループ間に於て凡て 0.90 以上を示し、特に学生、成人のそれぞれの男女間では 0.98 となり、好悪の順位に非常な高い一致性が見られる。

(ii) 学生層、成人層ともに大体次の傾向が見られる。即ち好意度の最高は自民族、次いで独佛英の民族、第3グループはスイス、イタリー、インドの各民族、第4グループはブラジル人、支那人、ビルマ人、第5グループはインドネシア人、フィリッピン人、ソ連人、第6グループ即ち最も好意度の低いものは濠洲人、黒人、ユダヤ人、朝鮮人である。

(iii) 学生層と成人層における順位差は一般に極めて小さいが、特に注意をひくものは米、ソ各民族に対する好意度の著るしい相違である。即ち両民族に対する両層の好意度は互いに逆の関係にあり、成人層では学生層に比しアメリカ人に対し遙かに好意を持っており、ソ連人に対し遙かに非好意的である。

次に各民族に対する好悪の順位の度数分布状況を % $(\frac{f}{N} \times 100)$ で計算して図示すると Fig 2 (学生層)、Fig 3 (成人層) となる。これらを見ると大凡六つの型が分類されるようで、之を前述の好意度順位グループと連関して表示してみると下記の如くなる。

型 式	学 生 層	成 人 層
1 右傾斜型	日 本 人……………第1グループ ド イ ツ 人 } ……第2グループ フ ラ ン ス 人 } イ ギ リ ス 人 }	日 本 人……………第1グループ ド イ ツ 人 } ……第2グループ ア メ リ カ 人 } フ ラ ン ス 人 } イ ギ リ ス 人 }
2 左側凸型	ス イ ス 人 } ……第3グループ イ タ リ ー 人 } ア メ リ カ 人 } イ ン ド 人 }	ス イ ス 人 } ……第3グループ イ タ リ ー 人 }
3 波状水平型	支 那 人 } ……第4グループ ソ 連 人 }	支 那 人……………第4グループ
4 凸 型	ブ ラ ジ ル 人……………第4グループ	イ ン ド 人……………第3グループ ブ ラ ジ ル 人 } ……第4グループ ビ ル マ 人 }
5 右側凸型	ビ ル マ 人……………第4グループ イ ン ド ネ シ ア 人 } ……第5グループ フィリッピン人 } 濠 洲 人……………第6グループ	イ ン ド ネ シ ア 人 } ……第5グループ フィリッピン人 } 濠 洲 人……………第6グループ
6 左傾斜型	ユ ダ ヤ 人 } ……第6グループ 黒 朝 鮮 人 }	黒 人 } ……第6グループ ソ 連 人 } ユ ダ ヤ 人 } 朝 鮮 人 }

凸型、特に波状水平型においてはそれらに属する民族に対する好悪の態度に著るしい個人差乃至不安定性を示すものであるものとして一段と注目される。

又学生層、成人層において度数分布曲線の型式に若干の出入がある。好意度順位において見られた米人、ソ連人に対するものを比較してみると、この曲線の上にも明確な相違が現われている。

(3) 第2項(好悪の理由)の結果について。各理由条項毎に指摘された数を纏めると Table 6 が得られる。この表から観取されることを列挙してみると、(i) 合計数の平均値からの各民族の得た数値の差を見ると、学生層、成人層とも大変よく類似した傾向を示している(列位相関 0.948)。(ii) そして好意度の高い第1、第2グループ乃至分布曲線の第1型式に属する各民族及び最も好意度の低い朝鮮人に対しては好悪の理由根拠が豊富である。ソ連人、黒人を除いて概して好意度の低い民族ではそれがかなり貧困であり、又ブラジル人は好意度では中央附近であるが根拠は著るしく少い。併し理由条項の数値の低い各民族は逆に「何となく好き、嫌い」項の数値が一般に高いことが分る。(iii) 理由として特に容姿が重視されているのはフランス人、イギリス人、黒人であり、民族性が重視されているのは、日本人、支那人、ドイツ人、ユダヤ人であり、政治ではフィリッピン人、インド人、スイス人が特に顕著である。又思想、文化ではフランス人、ドイツ人、日本人、学問芸術では、

インドネシア人、イタリー人、フランス人、ドイツ人である。

次に各々の理由条項の具体的内容を検討して行くこととしよう。

(1) 容姿の問題

具体的内容項目の実数と、それらの項目を「好ましいもの」「好ましくないもの」の2群にまとめてそのパーセントを計算して表にしたのが Table 7 である。好悪の非常にはつきり出ているのは朝鮮人

Table 6

実数

理由 民族	容姿		民族性		政治		思想・文化		学問・芸術		何となく 好・悪		合計数			第順 位の位	
	学生 A	成人 B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	平均よ りの差	B		平均よ りの差
日本人	101	126	198	176	62	107	118	123	83	118	61	31	623	+	681	++	1
朝鮮人	130	136	213	175	142	138	99	127	99	123	14	14	697	++	713	++	18
支那人	81	114	220	153	111	117	77	119	67	118	17	22	573	+	643	+	10
フィリピン人	58	77	121	114	132	113	65	94	65	90	23	21	464	-	509	=	13
ビルマ人	58	77	98	110	87	109	64	94	67	97	41	27	421	=	517	=	11
インドネシア人	60	84	92	113	63	96	65	100	68	102	43	20	391	=	515	=	12
インド人	71	91	138	124	158	125	75	107	67	104	21	20	530	-	571	-	8
濠洲人	48	75	84	98	94	99	54	92	58	91	45	20	384	=	475	=	15
イタリー人	72	90	103	120	74	102	73	103	91	104	32	33	445	-	552	-	7
フランス人	142	132	125	140	89	117	148	124	181	130	17	27	702	++	670	++	3
スイス人	79	108	109	135	178	134	65	112	68	105	20	31	519	-	625	+	5
ドイツ人	89	116	244	175	101	125	149	126	145	127	11	29	739	++	698	++	2
イギリス人	151	140	212	169	124	120	130	124	112	118	9	26	738	++	697	++	4
ソ連人	67	95	173	150	135	141	99	116	88	107	17	14	579	+	623	+	14
アメリカ人	111	138	218	172	171	147	121	134	120	128	9	23	750	++	742	++	6
黒人	124	114	143	125	45	90	81	103	81	100	34	24	508	-	556	-	16
ブラジル人	51	79	97	106	88	110	50	89	59	93	54	26	399	=	503	=	9
ユダヤ人	60	79	160	128	40	82	51	89	63	90	44	24	418	=	492	=	17
平均	87	104	153	137	105	115	88	110	88	103	28	24	549		599		

Table 7 容姿の内訳 (上段…学生, 下段…成人) 実数

%

	立派	みにくい	上品		下品		清潔		不潔		好ましいもの	好まないもの
			上	下	清	不	好	不				
日本人	32 52	2 15	19 18	3 1	38 36	4 4	91 84	9 16				
朝鮮人	1 0	13 17	0 1	37 40	2 7	77 71	2 6	98 94				
支那人	6 8	15 9	1 9	23 14	4 11	32 63	14 25	86 75				
フィリピン人	5 8	15 16	6 8	13 25	7 10	12 10	31 34	69 66				
ビルマ人	4 5	15 20	5 8	11 20	8 5	15 19	29 23	71 77				
インドネシア人	3 2	18 30	4 8	16 25	2 1	17 19	15 13	85 87				
インド人	14 14	15 27	12 9	8 10	9 8	12 23	50 34	50 66				
濠洲人	10 9	7 11	9 8	6 32	8 8	9 7	55 33	45 67				
イタリー人	25 28	0 2	83 35	5 7	11 15	1 3	92 87	8 13				
フランス人	42 30	0 2	83 80	0 1	14 19	1 0	99 98	1 2				
スイス人	22 40	0 1	32 45	1 1	24 27	1 0	97 98	3 2				
ドイツ人	53 65	1 0	14 15	2 0	19 34	0 2	97 98	3 2				
イギリス人	45 62	1 0	89 64	1 0	15 14	0 0	99 100	1 0				
ソ連人	24 19	7 18	3 8	13 24	11 11	9 15	57 40	43 60				
アメリカ人	40 61	1 4	16 25	17 9	37 39	0 0	84 98	16 2				
黒人	2 3	72 62	2 4	18 25	1 2	29 18	4 7	96 93				
ブラジル人	9 21	5 9	6 11	11 11	13 21	7 6	55 67	45 33				
ユダヤ人	14 13	8 15	9 16	10 20	5 8	14 7	47 47	53 53				

○印は好ましいもの

イタリー人, フランス人, スイス人, ドイツ人, イギリス人, 黒人である。朝鮮人では「不潔」, 黒人では「みにくい」が圧倒的で、イタリー人, フランス人, イギリス人では「上品」が、ドイツ人では「立派」が他群を圧している。アメリカ人では「立派」「清潔」が高く、スイス人では「立派」「上品」「清潔」が一樣に相当高く評価されている。支那人は「不潔」が朝鮮人に次いで高い。その他の民族では概して応答数も少く、個人差がかなり大きい。特にインド人, 濠洲人, ソ連人, ブラジル人, ユダヤ人に於てそれが著るしく、之等は外見上の接触源に乏しいため知識、感情の不確定性に由るのである。

(2) 民族性の問題

前項と同様の手続きによつて Table 8 を得る。この点から好意度が明瞭に示されているものはスイス人とドイツ人で、前者は「誠実」「勤勉努力」「温厚」が、後者では「勤勉努力」「忍耐強い」「思索的」「民族意識が強い」が

Table 8 民族性の内訳 (上段…学生, 下段…成人—以下同じ)

	美数															%										
	明 朗 快 活	い ん け ん	誠 実	ず る い	寛 大	狭 量	親 切	残 忍	勤 勉 努 力	怠 だ	思 索 的	感 情 的	忍 耐 強 い	あ き 易 い	傲 慢		温 厚	利 己 的	協 力 的	民 族 意 識 強 い	同 弱 い	紳 士 的	野 蛮 的	民 族 的 近 親	民 族 的 嫌 悪	好 ま し い も の
日 本 人	7	0	22	2	1	16	5	2	27	1	0	15	17	9	1	2	8	1	13	2	0	1	42	2	70	30
朝 鮮 人	0	18	2	42	0	21	1	7	1	6	1	10	5	1	0	2	2	0	16	5	0	16	12	39	18	82
支 那 人	0	9	3	29	13	2	2	8	13	4	0	1	37	0	1	7	14	5	23	3	0	4	49	6	67	33
フィリピン人	3	3	2	6	5	18	3	2	0	3	1	19	1	1	3	1	8	2	9	4	0	6	11	11	31	69
ピルマ	2	3	7	1	14	2	1	1	0	1	1	4	0	0	0	7	1	8	8	4	1	6	28	2	74	26
インドネシア人	1	1	8	3	1	2	3	2	0	7	0	2	4	1	2	4	3	1	13	6	0	10	15	5	55	45
インド人	0	2	17	0	9	0	9	1	5	1	5	2	11	0	1	14	0	11	14	2	1	2	27	4	89	11
濠洲人	1	2	1	2	1	13	1	5	1	2	0	5	0	0	5	3	7	3	9	4	0	5	2	14	24	76
イタリヤ人	15	2	5	1	0	3	3	1	4	3	3	13	3	3	0	6	2	5	5	2	0	0	20	1	65	35
フランス人	21	2	9	0	3	1	8	0	2	2	5	15	3	5	3	10	2	0	8	3	4	0	9	0	71	29
スイス人	9	0	18	0	2	0	5	0	22	0	3	0	3	0	0	13	0	6	3	1	9	0	5	0	99	1
ドイツ人	3	1	17	0	1	0	0	0	85	0	34	0	50	0	1	0	1	1	40	0	2	0	8	0	99	1
イギリス人	7	6	16	2	6	5	8	0	9	1	11	12	17	0	3	10	11	4	5	0	97	0	0	87	13	
ソ連人	2	26	2	18	2	0	2	13	13	0	3	1	29	1	1	6	8	2	15	0	0	15	1	42	58	
アメリカ人	86	7	1	17	3	4	14	5	1	2	1	3	1	6	1	26	1	7	3	1	9	1	2	9	59	41
黒人	6	6	6	1	0	4	5	3	5	3	0	16	0	0	0	9	0	2	0	11	0	41	2	36	64	
ブラジル人	6	7	5	1	6	0	5	0	6	5	0	4	2	0	6	1	1	21	0	2	0	2	14	1	74	26
エドヤ人	0	22	3	26	1	4	0	9	6	2	3	0	15	0	1	13	1	20	2	8	0	3	16	3	79	21
	0	14	0	18	1	2	1	6	7	0	2	9	9	0	1	29	0	17	5	0	0	4	0	19	32	68
	0	14	0	18	1	2	1	6	7	0	2	9	9	0	1	29	0	17	5	0	0	4	0	19	31	69

○印は好ましいもの

高く評価されている。次には朝鮮人、インド人、イギリス人で、朝鮮人では「ずるい」「民族的嫌悪感」が顕著であり、イギリス人では「紳士的」が圧倒的である。インド人は「民族的近親感」が高い。ブラジル人、フランス人もかなり好意的に評価され、前者では「協力的」「民族的近親感」が、後者では「明朗快活」「温厚」などが高い。又朝鮮人、フィリピン人を除いて概してアジア諸民族に対し民族的近親感をもっていることが注目される。特に学生層と成人層に於て好悪の評価が喰い違っているのはアメリカ人で、「明朗快活」以外は殆んど逆になっている。一般に本項は項目数も多いが、ある特定項目に集中する割合は小さく、分散度が大きい。この事は各民族に対する民族性への明確な判断が不確定であることを示し、好悪もかなり主観的な一般感情から生じていることが想像される。

(3) 政治上の問題

Table 9 から好意度の最も明かなのは朝鮮人、インド人、イタリー人、フランス人、スイス人、ブラジル人である。朝鮮人は「排日的」「抗日的」が圧倒的である。インド人、スイス人は「中立的」「平和的」が群を抜いている。イタリー人、フランス人、ブラジル人は「友好的」「親日的」が高い。次にドイツ人、ソ連人、黒人であるが、ドイツ人は矢張り「親日的」「友好的」であるが、ソ連人は「謀略的」「独裁的」が圧倒的である。黒人は併し応答数が少い。フィリピン人は「排日的」「抗日的」が極めて高い。アメリカ人に対してはここでも学生層と成人層との著しい評価の相違が見られ、後者が極めて親米的であるのに対し前者はかなり反米的である。

(4) 思想・文化の問題 (4) (5) (6) は Table 10 参照

ここで注目されることは (i) 自国民以外のアジア諸民族が凡てこの面で劣っていると評価されていること。(ii) 欧米諸民族は凡て優れていると評価されていること。(iii) 濠洲人、黒人、ブラジル人、も劣っていると評価され、ユダヤ人では個人差が大きい。(iv) 大体「優れている」と「自分に合う」、「劣っている」と「自分に合わない」とは相関関係にあるが、支那人、インド人では思想、文化が同一系統にある為か劣っているが合うとすものが多く、ソ連、アメリカ両民族に対しては優れているが合わぬとするものが極めて多いのは思想、文化の内容、質に於て融和しないものがあるからであろう。

(5) 学問芸術の問題

この項は前項と稍々類似しているが、評価の客観性に於てより高いものと考えられる。この点からの好意度は最も鮮明に出ていて、イタリー人、フランス人、ドイツ人、イギリス人、アメリカ人では極めて高く評価され、朝鮮人、黒人、フィリピン人、ビルマ人、インドネシア人、に於て最も低く評価されている。又本項では思想、文化面と同様アジア諸民族に於て著るしく劣り、欧米諸

Table 9 政治上の問題の内訳

実数 %

	中 立 的	親 日 的	友 好 的	平 和 的	民 主 的	抗 日 的	排 日 的	侮 日 的	謀 略 的	独 裁 的	好 ま し い	好 ま し い も の く
日 本 人	9 18	3 4	2 6	9 37	23 29	0 0	0 0	0 0	5 3	12 10	73 88	27 12
朝 鮮 人	4 7	2 3	1 1	1 0	0 0	56 51	59 41	15 21	2 7	0 7	6 8	94 92
支 那 人	4 6	14 10	38 28	11 6	2 2	9 14	16 15	3 9	8 14	6 13	62 44	38 56
フィリピン人	2 13	7 3	13 12	3 4	1 4	42 26	52 43	10 8	0 0	0 1	20 31	80 69
ビルマ人	9 18	21 24	31 40	5 10	1 2	5 4	11 6	2 3	0 1	0 1	79 86	21 14
インドネシア人	10 21	11 19	15 30	2 9	2 2	5 2	12 6	3 4	1 1	2 2	63 84	37 16
インド人	58 33	18 28	28 27	49 28	1 3	2 0	0 2	1 0	1 1	0 4	97 94	3 6
濠洲人	9 14	2 4	7 6	2 2	3 2	13 10	42 39	14 15	1 2	1 5	24 28	76 72
イタリー人	15 21	22 28	28 27	2 15	3 5	1 1	0 2	1 0	0 3	2 0	95 94	5 6
フランス人	17 24	16 11	22 34	21 27	11 15	1 0	1 1	0 2	0 2	0 1	98 95	2 5
スイス人	127 71	5 3	2 14	42 37	1 6	0 0	0 1	0 8	0 0	0 0	100 94	0 6
ドイツ人	13 9	37 32	31 37	4 12	4 11	0 2	0 4	1 4	2 5	9 6	89 86	11 14
イギリス人	14 14	10 27	16 25	17 17	40 17	3 1	9 4	10 4	4 10	1 4	78 81	22 19
ソ連人	2 4	1 4	7 3	12 4	3 2	2 5	7 4	3 3	46 60	52 52	19 12	81 88
アメリカ人	2 2	28 39	18 23	3 8	36 48	0 0	0 1	13 6	50 14	21 6	51 81	49 19
黒人	19 26	4 11	9 25	6 7	0 5	2 3	0 1	5 4	0 1	0 7	84 82	16 18
ブラジル人	9 12	44 44	22 32	9 7	2 7	0 3	1 1	0 0	1 0	2 1	95 95	5 5
ユダヤ人	16 21	0 5	1 1	5 7	0 2	0 1	1 4	1 1	12 36	2 4	58 44	42 56

○印は好ましいもの

Table 10
思想・文化上の問題

	実数		%		好ましいもの	好ましくないもの
	優れている	劣っている	自分に合う	自分に合わない		
日本人	56 66	11 17	41 37	10 3	82 84	18 16
朝鮮人	0 0	84 98	0 2	15 27	0 2	100 98
支那人	9 23	38 52	17 14	13 29	34 31	66 69
フィリピン人	4 6	50 61	2 7	9 20	9 14	91 86
ビルマ人	1 4	49 63	5 12	9 15	9 17	91 83
インドネシア人	1 5	53 78	0 7	11 10	2 12	98 88
インド人	14 23	33 57	15 19	13 8	39 39	61 61
濠洲人	7 13	31 43	3 11	13 25	18 26	82 74
イタリ人	42 55	5 11	23 33	3 4	89 85	11 15
フランス人	118 100	0 1	24 19	6 4	96 96	4 4
スイス人	41 81	2 6	17 22	5 3	89 92	11 8
ドイツ人	119 99	0 3	29 22	1 2	99 96	1 4
イギリス人	105 105	2 0	20 12	4 7	95 94	5 6
ソ連人	43 38	17 13	7 0	52 65	42 33	58 67
アメリカ人	85 115	4 2	9 9	23 8	76 93	24 7
黒人	4 1	67 80	3 6	7 17	9 7	91 93
ブラジル人	6 18	31 39	7 26	6 6	26 49	74 51
ユダヤ人	22 22	13 34	0 5	16 28	43 30	57 70

○印は好ましいもの

民族に於て著るしく進んでいると評価されている。

(6) 何となく好き嫌いの問題

これはいわば各民族に対する一般感情ともいうべきもので、無意識的固定観念の発現と見られよう。ここで気附かれる主なる点は (i)自国民及びインド人を除いてアジア諸民族に対しては嫌悪感が高く (ii)西欧人に対しては好意感が高い。(iii)濠洲人、ソ連人、黒人、ユダヤ人に対しても嫌悪感が高く (iv)特に目立つのはアメリカ人に対する好悪感で、学生層は成人層の親米感情の著るしいのに反してかなり嫌悪感が強い。(v)知識源の乏しい諸民族例えばビルマ人、インドネシア人、ブラジル人、ユダヤ人に対しては一般にこの頻数が多く、理由はつきりしないが何となく虫が好かぬという一般感情

学問・芸術上の問題

	実数		%		何となく好き	何となく嫌い	好ましいもの	好ましくないもの
	進んでいる	遅れている	好ましいもの	好ましくないもの				
日本人	72 105	11 13	87 89	13 11	61 31	0 0	100 100	0 0
朝鮮人	1 2	98 121	1 2	99 98	1 5	13 9	7 36	93 64
支那人	14 28	53 86	21 25	79 75	7 12	10 10	41 55	59 45
フィリピン人	2 4	63 86	3 4	97 96	5 5	18 16	22 24	78 76
ビルマ人	1 3	66 94	2 3	98 97	9 11	32 16	29 41	71 59
インドネシア人	2 4	66 98	3 4	97 96	5 5	38 15	12 25	88 75
インド人	16 20	51 84	24 19	76 81	16 11	5 9	76 55	24 45
濠洲人	13 17	45 74	22 19	78 81	9 1	36 19	20 5	80 95
イタリ人	85 88	6 16	93 85	7 15	25 25	7 8	78 76	22 24
フランス人	181 126	0 3	100 98	0 2	14 24	3 3	82 89	18 11
スイス人	61 98	6 7	91 93	9 7	16 27	4 4	80 87	20 13
ドイツ人	143 124	2 2	99 98	1 2	11 28	0 1	100 97	0 3
イギリス人	111 118	1 0	99 100	1 0	7 22	2 4	78 85	22 15
ソ連人	66 79	22 28	76 74	24 26	5 4	12 10	29 29	71 71
アメリカ人	111 124	9 4	92 98	8 2	3 22	6 1	33 96	67 4
黒人	1 3	80 97	1 3	99 97	5 6	29 18	15 25	85 75
ブラジル人	7 19	52 74	12 20	88 80	12 16	42 10	22 62	78 38
ユダヤ人	23 41	40 49	37 46	63 54	4 5	40 19	9 21	91 79

が支配しているように思われる。

以上の考察を要約するため各項目につき好ましいものと好ましくないものとの相対的得点差の表 (Table 11) を作り、何れの理由条項が好意度決定に重要な因子となっているかを検討してみると、大略下表の如くなる。

	学 生	成 人
日本人	I, II, IV, V, VI	V, I, IV, III
朝鮮人	I, II, III	II, IV, I, V
支那人	I, II	I, V, IV
フィリピン人	III, V, IV	V, IV, II
ビルマ人	V, IV, II, III	V, IV, III

インドネシア人	V, IV	V, IV, III
インド人	III, II	同
濠洲人	III, II	V, IV, III, II
イタリ人	V, III	III, IV, V
フランス人	V, I, IV	I, V, IV
スイス人	III, II	II, III
ドイツ人	II, IV, V	II, V, IV
イギリス人	II, I, IV	I, V, IV, II
ソ連人	III	同
アメリカ人	V, I, IV	I, V, IV
黒人	I, V, IV	同
ブラジル人	III, II	同
ユダヤ人	II	II, IV

(4) 接触法及び接触度についての結果

応答数を纏めると Table 12 が得られる。之で見ると接触度の最大なものは自国民は別として英米人であり、次いで、独、佛、ソ、支の各民族、接触度の少いのはフィリッピン人、ブラジル人、ビルマ人、特に目立つて少いのがインドネシア人、濠洲人、ユダヤ人である。この接触度の多少は好悪の理由としてチェックされた数の多少とかなり一致して、学生、成人のそれぞれの合計数につき列位相関をとつてみると 0.918 という高さを示す。従つて接触度の多少は好悪の態度決定に重大な関係をもつていと言えよう。接触度が極めて乏しい例えば予備実験に於て示された如きメキシコ人、トルコ人などについては抑々好悪感情の発生の余地もないのである。次に好悪の態度に重大な決定要素となるものはその接触の仕方つまり接触が直接か間接かという事である。この立場から見ると「日常の交際」とか「日常の観察」という直接経験によるものは自国民以外ではアメリカ人、朝鮮人、黒人、支那人位のもので、他は殆んど所謂マス・コミュニケーションによる間接経験が圧倒的で、而も就中「新聞」の果たす役割は特に注目される。全体の平均からすると次に位するのは雑誌であり、次いでラヂオ、書物、映画演劇、講演などとなつてゐる。特にフィリッピン人、ビルマ人、インドネシア人、濠洲人、ブラジル人についての知識源は「新聞」が決定的である。又フランス人、イタリ人、イギリス人、アメリカ人についての知識源として学生層に於ては映画演劇が重大視

Table 11 各項目における好・非好の相対的得点差表

(上段…学生, 下段…成人)

	容姿	民族性	政治	思想・文化	学問・芸術	何好となく嫌	平均
日本人	+32 +53	+32 +37	+12 +49	+31 +51	+26 +56	+25 +19	+26 +44
朝鮮人	-72 -73	-57 -95	-51 -70	-41 -75	-39.6 -73	-4.6 -2	-45 -65
支那人	-24 -35	+30 +3	+11 -8	-10 -26	-16 -35	-1 +1	-2 -17
フィリッピン人	-9 -15	-19 -27	-32 -26	-22 -41	-25.2 -50	-5 -7	-19 -28
ビルマ人	-10 -25	+20 +19	+20 +48	-22 -38	-26.6 -55	-9 -3	-4 -9
インドネシア人	-17 -38	+4 +11	+7 +40	-25.6 -47	-26.2 -58	-14 -6	-12 -16
インド人	0 -18	+44 +42	+61 +69	-7 -14	-14 -39	+5 +2	+15 +7
濠洲人	+2 -16	-18 -25	-20 -26	-14 -26	-13 -35	-11 -11.4	-12 -22
イタリ人	+25 +41	+13 +14	+27 +55	+24 +45	+33 +44	+7 +10	+21 +35
フランス人	+56.6 +77	+19 +52	+35.2 +64	+56 +70	+74 +75	+5 +13	+41 +58
スイス人	+31.2 +67	+39.6 +79	+72 +75	+21 +58	+23 +56	+5 +14	+32 +58
ドイツ人	+34 +69	+98 +103	+31 +49	+60.6 +71	+58.2 +75	+5 +16.4	+48 +64
イギリス人	+60.2 +85	+65 +66	+29 +47	+49 +67	+45.6 +72	+2.2 +11	+41 +58
ソ連人	+4 -12	-11 -24	-35 -66	-7 -25	+18 +31	-3 -4	-5 -13
アメリカ人	+31 +78	+17 +69	+2 +57	+28 +70	+42 +74	-1 +12.4	+20 +59
黒人	-47 -59	-17 -24	+12 +35	-27 -55	-32.6 -57	-10 -7	-21 -28
ブラジル人	+2 +16	+20 +37	+32 +60	-10 0	-18 -33	-12 +4	+3 +14
ユダヤ人	-2 -3	-24 -25	+2 -6	-3 -22	-7 -5	-14 -9	-8 -12
	I	II	III	IV	V	VI	

されている。このように見てくると、マスコミュニケーションが民族に対する好悪の態度にいかほど重大な力と影響をもつてゐるかが容易に理解される。この意味から新聞、雑誌ラヂオ、書物、映画等が各民族について如何ような知識を提供したか、真実を伝えているか、偏見を真実の如くに扱つてはいないかなどの客観性、真実性、確実性などが大きな問題となつて来る。

(4) 要 約

以上 18 民族に対する学生層及び成人層の態度に関する所見を要約すると次の通りである。

(i) 好意度の順位と各順位の度数分布状況から18民族を分類すると次の6型式が得られる。

Table 12

上段…学生, 下段…成人

実数

	日常の 交際	日常の 観察	雑誌	新聞	書物	ラジオ	映画 演劇	講 演 人 の 話	学校で の講義 研究	合計数				第一項 の順位
										学生	平均よ りの差	成人	平均よ りの差	
日 本 人	192 106	145 81	102 57	110 66	104 57	110 65	102 51	99 53	96 —	1060	++	536	++	1
朝 鮮 人	13 22	112 73	101 50	160 78	57 35	110 53	19 17	30 48	7 —	609	—	376	+	18
支 那 人	10 23	28 42	134 61	172 90	116 49	112 58	24 19	70 50	28 —	694	+	392	+	10
フィリッピン人	0 4	1 8	92 59	176 91	54 37	119 49	14 15	31 26	0 —	487	—	289	—	13
ビルマ 人	2	2 9	86 51	151 94	48 40	92 36	7 11	24 34	3 —	413	≡	277	≡	11
インドネシア人	2	3 5	77 50	140 89	42 29	82 33	7 13	16 28	3 —	370	=	249	=	12
イ ン ド 人	2 2	5 14	111 70	177 97	75 48	125 53	40 24	37 45	15 —	587	—	353	—	8
濠 洲 人		6 8	70 42	129 85	46 40	75 39	10 11	18 25	7 —	361	=	250	=	15
イタリー 人	1	1 8	101 60	104 79	92 55	83 47	145 51	22 32	13 —	561	—	333	—	7
フ ラ ン ス 人	1 4	3 12	136 78	148 95	151 69	112 59	186 81	53 32	47 —	837	+	430	+	3
ス イ ス 人	1 1	2 6	114 74	122 80	94 57	71 42	29 20	42 40	18 —	493	—	320	—	5
ド イ ツ 人	1 8	4 12	137 84	163 101	149 72	105 61	118 51	81 52	72 —	830	+	441	+	2
イギリス 人	2 7	26 23	146 86	181 102	149 69	125 72	154 70	77 53	69 —	929	++	482	++	4
ソ 連 人	5	5 18	130 67	179 101	128 53	127 71	94 37	75 61	31 —	769	+	413	+	14
アメリカ 人	28 28	147 86	158 81	187 110	146 70	151 95	167 91	102 72	68 —	1154	++	633	++	6
黒 人	4 6	97 53	88 57	99 64	58 39	59 37	65 34	26 32	11 —	507	—	322	—	16
ブラジル 人	1	2 5	80 60	143 91	44 34	87 51	15 13	36 41	9 —	416	≡	296	≡	9
ユダヤ 人		4 8	75 50	68 53	102 54	38 28	30 11	26 38	25 —	368	=	242	=	17
平 均	14 12	33 26	108 63	145 87	92 50	99 53	68 34	48 41	29 —	636		369		

(○内の数字は好意度順位)

番号	型式名	学 生 層	成 人 層
I	右 傾 斜 型	①日本人 ③フランス人	②ドイツ人 ④フランス人 ⑤イギリス人
II	左 側 凸 型	⑤スイス人 ⑦インド人	⑥スイス人 ⑦イタリー人
III	波 状 水 平 型	⑨支那人	⑩ソ連人 ⑪支那人
IV	凸 型	⑩ブラジル人	⑧インド人 ⑩ビルマ人 ⑨ブラジル人
V	右 側 凸 型	⑪ビルマ人 ⑬インドネシア人 ⑭フィリッピン人 ⑮濠洲人	⑫インドネシア人 ⑬フィリッピン人 ⑮濠洲人
VI	左 傾 斜 型	⑯黒人 ⑰朝鮮人	⑭黒人 ⑰ユダヤ人 ⑯ソ連人 ⑱朝鮮人

第1型式と第6型式とは著るしい好悪に対する *stereotyped attitude* があるものと考えられ、第3型式及び第4型式は各個人に於て好悪の評価に著るしい個人差があつて、未だ好悪の態度における *stereotyped tendency* は見られない。第2、第5の型式は前二者の中間型と見られ、全体的に言えば十分な *stereotyped attitude* は形成されるに至っていないが、ある程度の固定化傾向を示していると思われる。

(ii) 各型式の主要特長を述べてみると、

(イ) 第1、第6の型式の特長——第1型式では接触源が多面的且つ豊富であり、従つて理由根拠もその数が多く、各理由条項において凡て好ましいものと評価される。自国民を除いて成人層も学生層も共にドイツ人、フランス人、イギリス人に対してこの第1型式の範疇に於て評価しているが、之は明治初期以来約百年間に亘り凡ゆるマス・コミュニケーションによつて浸みこまされた我が国民の彼等諸民族に対する凡ゆる面に於ける卓越性のために根強く喰いこんだ彼等への先進民族観、優秀民族観、逆に言えば彼等諸民族への自己民族の根深い民族的劣等感 *racial inferiority complex* に由るのであると考えられる。アメリカ人に対しては成人層は依然前述の事情により更には太平洋戦争（第二次世界大戦）及びその後のアメリカ人との急激な直接的接触を通して益々彼等を優等視することが強化されるに至つたことにより圧倒的に好意度が高くなつていていると思われる。併し学生層では成人層とはその米人観に於て著るしく異つた排米教育を受け、戦後の日本の歩みが彼等によつて束縛され支配され利用されていると感じ、特に政治的に経済的に操つられていると感ずるところから、成人層のもつていような好意的な *stereotyped attitude* は崩壊しつつあると考えられる。特に国際的にも米国がその平和政策に於てどちらかと言えば失敗しつつあるとの印象が強くと、その為愈々米人への不信を強めていていると思われる。

第6型式の特質は特に朝鮮人に於て最も典型的に現われていて、その接触源は直接経験が新聞と共に圧倒的で、好悪の理由も凡ゆる条項に於て好ましくないものが多く、而もその評点差も著るしく高い。朝鮮民族は同一民族系統であり、而も時間的にも空間的にも最も緊密な関係にあり乍ら、氷炭相容れない犬猿の仲ともいふべき緊張関係にある。空間的に近接している場合の親密関係は相互に採長補短して全を成す関係に於て成立つが、絶えず利害得失が衝突し、相互にその接触に於て不当な圧力を感じ合つて

いる時は強い嫌悪感と緊張感を生ぜしめる。特に従来劣者の立場にあつて一応の均衡が保たれていたものが俄かにその立場を代えて優者となつた時、そこに大きな社会的緊張の起るのは当然であろう。こうした関係が不幸にして朝鮮人に対する好悪の態度の形成の重大な因子となつていていると考えられる。

黒人、ユダヤ人については、朝鮮人に対するのはかなり趣を異にしている。黒人とはかなり直接観察による接触源はあるが、ともに全体的には接触源も乏しく、従つて理由数も少い。黒人では特に「容貌」「学問・芸術」「思想・文化」に於て好ましくないが故に又、ユダヤ人では主として「民族性」に於て好ましくないが故に好意が持てない、否何となく嫌いだという嫌悪感情が支配的である。ソ連人に対しては成人層では依然かなり強い非好意的態度をもつていすが、学生層では成人のこうした態度は相当に崩壊して来ていると思われる。この事實は米人に対する態度と正に対照的であつて、ソ連人に対する教育は米人程排斥的でなかつたことと、戦後におけるソ連人の国際的活躍、中共の目覚ましい勃興などが陰に陽に彼等に対する好悪の態度形成に大きく影響していると想像される。

(ロ) 第3型式の特長

好悪順位の度数分布に於て波状水平型を示すところからも察せられるように、この型を示すものは被験者において当該民族に対する好悪の態度に著るしい個人差のあることを物語っている。支那人及び学生層について見られるソ連人の場合何れも接触源も理由数もかなり多いが、その好悪の評定に著るしい相違があり、好意的なものとは非好意的なものとは二分されるような凹型の図式をとる傾向さえ見られる。併し両者とも何れかと言えば非好意的態度が依然濃厚ではあるにしても今後の態度の変化が期待されよう。

(ハ) 第4型式の特長

この型式に入るものはブラジル人が代表的である。成人層でのインド人、ビルマ人もこの範疇に入る。接触源は大体新聞が主要なものであり、次いでラジオがかなりな役割を演じている。従つて理由数も少く、何れも政治的、民族性の上から好意を寄せ文化学問の点では非好意的で、いわば好悪の中間的の民族と評価されるわけである。

(ニ) 第2、第5の型式の特長

第2型式は当該民族に対しより好意的傾向を、第5型式はより非好意的傾向を示すものである。前者ではスイス人、イタリー人、後者ではインドネシア

人、フィリッピン人、濠洲人が代表的である。学生層における「映画」を除いては一般に接触源は新聞以外は極めて少く、又理由数も少い。スイス人、イタリヤ人に対しては凡ての理由条項に亘つて好ましいとされ特に前者では政治面と民族性に於て、後者では芸術学問、民族性に於て好意が持たれている。非好意的傾向の強い濠洲人に対しては殆んど凡ゆる理由条項について好意が持たれず、インドネシア人では文化、学問に於て、フィリッピン人では政治面及び学問の上で特に好意が持たれていない。インド人については、ネール首相の中立的平和世界政策、東西両陣營の平和斡旋者としての活躍が特に学生層に好感が持たれているようであり、又ビルマ人については日本との賠償問題に関する寛大なビルマ人の態度が成人層においてより好感を抱かれているようである。併しこの両型とも好悪の態度に於て矢張り相当の個人差があり、未だ *stereotyped attitude* の確立にまでは達していないと思われる。

(iii) 更に世界地図を開き今一度民族に対する好意度順位を回想してみると、第1、第2の型式に入るのは自国民と学生層におけるインド人を除いて独、佛、英、米、伊、スイスの欧米諸民族であり、第5、第6の型式には濠洲人、ソ連人、ユダヤ人を除いては殆んどのアジア民族であり、黒人である。支那人と雖もその順位に於て学生層で9位、成人層では更に低く11位という状況である。この事は一面に於て白色人種の優位、有色人種の劣位という歴史的な人種的偏見が今日尙わが国民の血脈中に生きて流れていることを示し、又他面においてアジア諸民

族に対するわが国民の優越性の信念の表現ではなからうか。そして日本の周辺にある近接諸民族——米、ソ、朝鮮、支那、フィリッピン、インドネシア、ビルマ、濠洲などの諸民族——に対しては米人を除きすべて非好意的態度乃至傾向を持ち、遙か彼方の西欧諸民族に対して好意的態度乃至傾向を持つているわが国民は何としても国際的に不幸であると考えざるを得ない。併し既に見て来たようにインド人、ソ連人、支那人、アメリカ人等に対する好悪の態度には昨今かなり変動を来しつつある事實に鑑み、日本の国際的地位や国際情勢の変化に伴い、各民族に対する好悪の態度も逐次変動していくだろうと予想される。国際的緊張関係が一日も早く緩和されるためには相互の深い理解と心からの尊敬が絶対に必要である。そのためには相互の民族が直接、間接の接触源を多面的且つ豊富にしてよく相互の立場を理解し、唇齒輔車、相互依存の關係に於て互いに全を成すという国際的在り方が実現されることが強く希求されるのである。

(iv) 学生層と成人層に於ける好意度順位は高い一致を示し、その列位相関は0.941である。但し米人とソ連人に対しては前者の反米的や親ソ的なのに対し、後者は著るしく親米的、反ソ的である。各層の男女差も極めて小さい。

(v) 自国民に対しては当然乍ら極めて好感的であるが、之は所謂自己愛的なものというべき点が多く、理由条項を見てもかなり自己反省的なもの、更には自己嫌悪的なものもあり、特に学生層に於てこの点が強く示されている。われわれは国際的に真に信頼され、敬愛される民族とならねばならない。